

福島県農業

No. 582

題字 福島県知事 佐藤 雄平



ふくしまから
はじめよう。

Future From Fukushima.

2

2013

かんしゅう■福島県農林水産部
表紙の写真■早春の里山風景



「特定非営利活動法人 福島県もりの案内人の会」の 活動について

NPO法人福島県もりの案内人の会
代表理事 薄井 浩

まず最初に、「福島県もりの案内人」について紹介させて頂きますと、私たち「福島県もりの案内人」は、自然観察や森林づくりなどのふれあいを通じて福島県民のみなさんと一緒に森林の役割や大切さを学びながら伝えていく森林学習のインタープリター（人間と自然の通訳者）、として森林ボランティア活動に取り組んでおります。

福島県が平成九年度より実施している「福島県もりの案内人養成講座」も、既に十五年という時が過ぎていますが、当講座を終了し「福島県もりの案内人」として認定されている者は、現在、県下で四四五名に及んでいます。

さて、私たちの「特定非営利活動法人福島県もりの案内人の会」は、「福島県もりの案内人」として、福島県知事から認定された者を中心に組織する団体であります。発足当時は、会員二〇数名で活動していましたが、毎年、会員が増加し平成十四年度に福島県を四ブロックに分け、「県北、県中・県南、会津、いわき・相双」の四支部を発足させました。

その後、組織拡大に伴い、平成十九年度に特定非営利活動法人（NPO法人）を取得したところに、相双支部が分離独立、平成二三年度に南会津支部が開設し、さらに、平成二四年度に県南支部の分離独立を経て、本会の組織は、全県下七支部に拡大充実すると共に、現在の会員総数は、三〇〇名余に及んでいます。

私たちは、主に、小、中学校の森林環境学習をはじめ、子供会、生涯学習及び企業等からの講師派遣依頼により自然観察、木の枝クラフトや森林整備指導などの森林体験総合学習活動をしております。また、当会の野外フィールドとする「ふくしま県民の森、フォレストパークあだたら」においては、関東圏や地元の入園者等に対して、広く森林に親しみ、森林に学ぶ活動をおこない、各支部においても、地元の公園などをフィールドとして、同様の活動を行っております。

平成二四年度は、県内のいわき・相双支部の二支部が東日本大震災及び東京電力福島第一原発事故により活動休止状態ですが、小、中学校の森林環境学習をはじめ、公民館等の生涯学習、企業等から依頼を受け、平成二四年十二月末現在、約一万一千人の方々と自然観察や木の枝クラフト等の自然体験を通じて、森林との未来を考え、森林と共生する自然環境づくりを目指し、緑化の推進や次代を担う青少年の育成、森林ボランティアの活動に取り組まれました。

東日本大震災及び東京電力福島第一原発事故の発生から二年が過ぎようとしています。未だに放射線被曝の問題等を抱え、先行き不安で長期化の状況にありますが、私たちは、子どもたちを森林（もり）から遠ざけないために、まず、私たちのできることから、前向きにやっつけていこうと考えています。子どもたちに、安心と安全で、豊かな森林体験を提供し続けるために。

そして、子どもたちが一日も早く森林に戻ってくるようにしなければなりません。

《も く じ》

とびら	林道を訪ねて3,000kmシリーズ（第16回）
「特定非営利活動法人福島県もりの案内人の会」の活動について	「室谷本名線との出会い」…………… 7
NPO法人福島県もりの案内人の会 代表理事 薄井 浩… 1	普及指導員通信…………… 8
山火事を防止しよう	木連だより…………… 9
～山の火事 もとは小さな 火種から～ … 2	福島水源林整備事務所だより…………… 10
林業労働力確保支援センターだより … 3～4	林研コーナー…………… 11
緑の募金コーナー…………… 5	木材市況・ふくしま東西南北…………… 12
木の施設…………… 6	はなしのひろば…………… 13

山火事を防止しよう

山の火事もとは小さな火種から

福島県森林保全課

○山火事の発生状況

冬から春にかけては空気が乾燥し、季節風も強いいため火災が発生しやすい気象条件となっています。また、春先は暖かくなって山に入る人が増えるほか、農作業等で火入れを行うなど山に近い場所で火を使う機会が増えます。

例年、二月から五月にかけて山火事の発生が集中します。平成二三年は県内で四〇件(前年三五件)の山火事が発生しましたが、八割以上がこの時期に集中しています。

○山火事の原因

平成二三年の山火事の原因は、「たき火」によるものが最も多く、次いで「たばこ」「放火の疑い」の順になっており、人為的な原因によるものが八割以上を占めています。(図一)

○山火事による損失

山火事による損失は、森林を所有する方の財産が失われるだけでなく、私達の生活環境を維持するうえで大切な水源かん養機能など、森林のもつ様々な機能も失うこととなります。

燃えてしまった森林をもとの姿に戻すためには、多額の費用と多くの人手、そして長い年月を要します。

このため、普段からの予防対策により山火事を出さないことが重要となります。

○山火事の消火方法

山火事の消火活動は、市街地の火災に比べ、道路、水利、地形などの条件から非常に困難であるため、自力での消火は大変危険です。

山火事が発生した場合や、山火事を発見したときは、すぐに消防署等へ通報するようお願いいたします。

なお、原発事故に伴う警戒区域・避難指示区域において大規模な林野火災等が発生した場合、管轄消防本部からの支援要請により、福島市消防本部(代表消防本部)で支援調整・広域応援隊の編成を行い、広域応援隊が派遣されることになっています。

○福島県での山火事予防運動

福島県では市町村、森林管理署、消防本部等の関係機関と連携して、「山火事予防運動」を実施しています。広報誌やテレビ・ラジオ、各農

林事務所の山火事予防の働きかけなどを通じて県民の皆さんに山火事予防についてお知らせしています。

○おわりに

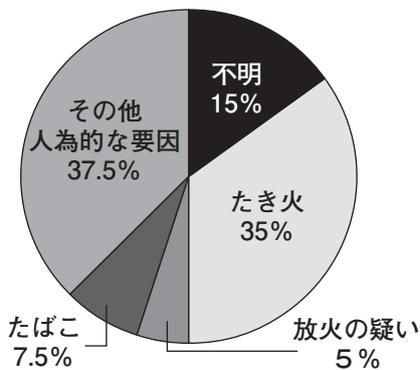
放射性物質に汚染された本県の森林で火事が発生すると、落葉や樹木に付いているセシウムが再び拡散してしまう恐れがあります。

大きな被害を引き起こす山火事を予防するため、特に春先の乾燥した季節には、森林のなかで火を使わないようにお願いします。また、やむを得ず森林のそばで火を使う場合には、つぎのことに注意して下さい。

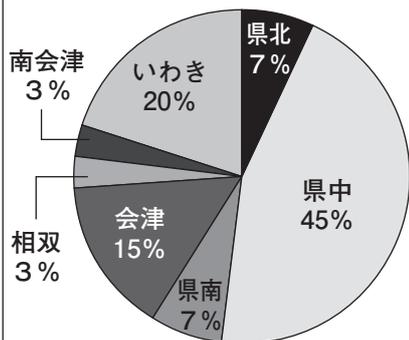
- 1 枯れ草などの燃えやすいものがある場所では、たき火をしない。
- 2 たき火をする時には水を用意しておき、火から離れる際には完全に消火する。
- 3 乾燥時や強風時には、たき火や火入れをしない。
- 4 火入れを行う場合は、必ず許可を受ける。
- 5 タバコは指定された場所で喫煙し、吸いがらは必ず消火する。吸いがらは投げ捨てない。
- 6 火遊びは絶対にしない。させない。

山火事の大部分は、私達一人ひとりの注意で防ぐことができます。福島県の緑豊かな森林を山火事から守るため、皆さんのご協力をお願いします。

図一 出火原因(平成23年)



図二 発生地域(平成23年)



林業労働力確保支援センターだより

未来に向けた 夢のある林業の 創造へ

―雇用の安定と定着をめざして―



高性能林業機械の実習／
高性能林業機械作業システム研修

林業労働力確保支援センターでは、県内林業の持続的かつ健全な発展のため、林業事業者の経営基盤の強化、林業の担い手の確保・育成等をめざし各種事業を実施しています。

平成二四年度に実施している研修や事業等について、その主な内容を紹介します。

◎高性能林業機械貸付事業

（高性能林業機械のリース）

高性能林業機械の貸付は平成二二年度から実施し、初年度に四九台、二二年度に二三台、二三年度に七台、さらに補正予算による追加要望分として五台を導入し、本年度は七台の導入を計画しております。

機械導入は林業労働者の減少に対応し、現在の作業工程の見直しに伴う機械化の推進、さらに重筋労働の軽減および、若年労働者等の確保を図り、森

林が有する多面的機能の維持増進に寄与するものです。

本事業により、県内の森林整備の推進と素材生産の増大に大きな期待が寄せられていると考えています。

今後とも、高性能林業機械を継続的に安定した台数で導入を図ると共に、導入した機械の効果的な稼働を維持するため、計画的な間伐等の現場での実施の実施が必要と考えております。

◎低コスト作業路開設研修

これから丈夫で低コストの森林作業道づくりに取り組む組もうとしている林業事業体に勤務する者を対象に、森林作業道づくりに必要な知識と、基本的な施工技術の習得を目的とする研修を、一般社団法人フォレスト・サーベイとの共催で、二四年八月下旬にいわき市で一回、二四年十一月中旬に埴町で一回、それぞれ四日間の日程で実施しました。

研修カリキュラムは座学と実技で構成され、座学では森林作業道の役割を、実技では森林作業道の作設手順と土工の基本技術、特に現場において必要となる洗い越、水切り、丸太組等の工法を、熟練の知識と技術を有する講師に研修生一人一人に十分に時間をかけて指導していただきました。

研修生は二箇所で二〇名でしたが、無事全員に修了証書を交付しました。

◎高性能林業機械作業システム研修

林業事業者で基幹的な林業労働者になり得る者を対象に、十一月に埴町で実施し三五名が参加しました。

研修は学科と実地（機械の操作等）で行い、学科で学んだ知識を現場において専門の講師の指導の下、四班に分けて実践しました。

現場では、機械（プロセッサ、グラップル付バックホウ二台、フォワーダ）四台を使い、実際の工程（玉切り・積込・運搬・はい積み）を行い、研修生は機械操作時の注意点や基本技術等を修得しました。

なお、研修の実施にあたりまして、低コスト作業路開設と合わせ、国有林を利用させて頂き、地元棚倉森林管理署のご理解・ご協力を頂きました。

また、この研修の実施に際しては、これまで日立、コマツ、イワフジの各機械メーカーの皆様からご協力いた

だり研修を実施しました。平成二五年度以降の内容等については、現在検討中です。

◎地域林業雇用改善促進事業

（厚生労働省委託事業）

①相談指導

求職者に対する情報の提供や相談、事業主に対する労働関係法規、各種制度、具体的事例などの相談指導を実施しています。

・林業雇用改善アドバイザー 二名配置

②雇用情報の収集・提供

林業に係る求人・求職に関する情報、雇用改善に資する情報などを収集し、求職者及び林業関係事業主に対してその情報を提供しています。

・情報誌の発行二回（二月下旬予定）

③委託募集

林業事業者の知名度の不足を補い、募集人数を多くすることで、求職者へのアピール度を高めるため、他の事業主及び支援センターと共同して行う改善措置に参加する事業主の委託により、支援センターが厚生労働省に届出・受理を得て求人募集を行っております。

・委託募集の実施事業者 十事業者

④林業雇用改善推進会議

林業労働力の確保の促進に関する基本計画に沿った各種事業のフォローアップ、地域の実情を踏まえた林業の

雇用管理改善等を効果的に推進するため、学識経験者、林業事業者を営む者の代表、林業労働者の代表、行政職員の名で構成される会議で年一回懇談形式で開催します。

・推進会議の開催 一月八日開催

◎異業種参入促進事業

林業への参入を希望する異業種団体（建設業者等）の作業員に対して、森林の知識や技能を習得させ、林業への参入機会を促進する目的の研修を八月～十一月にかけて実施しました。

森林除染業務を実施する上で、刈払機安全衛生教育・チェーンソー特別教育の受講は必須条件となっていることから研修実施の要望が多く、八三名の方が森林・林業の知識の講義及び前記各特別教育等を受講しました。



チェーンソーの講習／異業種参入促進事業

◎「緑の雇用」現場技能者育成対策事業

三年間を通じて体系的に技能の習得が図られるよう全国統一のカリキュラムを整備し、これに基づき研修を実施しました。

①集合研修

新規就業者等（二年生～三年生）に対し、林業の基本的な知識・技術技能等を習得させるための座学及び実習等による研修を六月～十一月にかけて、七五日間実施し、二・四名に「修了証」を交付しました。

なお、三年間研修を修了した研修生につきましては、平成二五年度林野庁発行の研修修了者名簿に登録を予定しております。

②実地研修

集合研修の内容を踏まえ、各事業者等の習熟を図る実地（OJT）研修（二年目：上限八ヶ月 一三〇日、二年目：上限六ヶ月 九〇日、三年目：上限六ヶ月 九〇日）の研修を県内の五〇事業者で実施しました。

◎林業就業支援講習

一月～二月にかけて二〇日間の予定で講習を実施する予定でありましたが、残念ながら募集定員（五名）に達しなかったため中止となりました。

講習の内容は、「刈払機作業従事者安全教育」・「伐木の業務に係る特別教

育」・「小型車両系建設機械運転業務特別教育」・「林内作業車を使用する集材作業に従事する者に対する安全教育」・「救急法基礎講習」・「森林・林業の知識」等となっております。

◎放射性物質に対応した森林作業等に関する研修会

二月四日に郡山市のホテルバーデンにおいて、林業事業者および班長・基幹作業員等を対象に、放射性物質に対する正しい知識や放射性物質の森林への影響等に関する研修会を、当協会主催により開催いたしました。

講師には、独立行政法人放射線医学総合研究所の福島復興支援本部環境動態・影響プロジェクトリーダーである吉田聡氏を招き、森林における放射性物質の動態について講演をいただいたほか、福島労働局による講演等をいただきました。

◎高性能林業機械実践研修会

平成二二年から二四年の四カ年間で計九一台の高性能林業機械の貸付を実施し、その結果、県内での林業機械の導入数は飛躍的に伸びています。

これに伴い、効率的な運行・安全な操作が求められ、事業者の経営改善・労働災害防止を目指した研修会を開催しています。八月に猪苗代町若宮の公社造林地を中心に、延べ一五七名の参加を得て、機械の保守・点検、安全操作、



スイングヤダの実習／高性能林業機械実践研修会

さらに最新型機械四台による伐倒、造林、搬出、集積と現場での機械操作を含めた研修会を実施しました。

なお、次年度以降の実施については、研修内容を検討のうえ、継続する予定であります。

林業労働力確保支援センターの主な事業を紹介しましたが、これからも、皆様のご理解とご協力をいただきながら、福島県の森林・林業の発展に努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

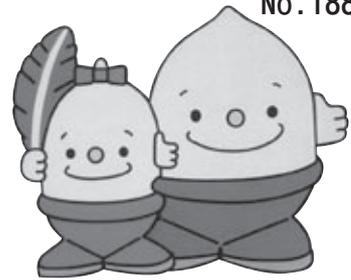
なお、末尾になりますが、林業労働力確保支援センターの業務として実施してきました、「林業就業促進資金貸付事業」は活用実績がなく、貸し付け以外の制度を利用している等、今後の需要が見込めないため廃止しておりますのでご理解願います。

平成25年度の緑の募金目標額 **7,000万円**

緑の募金のご協力よろしくお願いたします

緑の募金コーナー

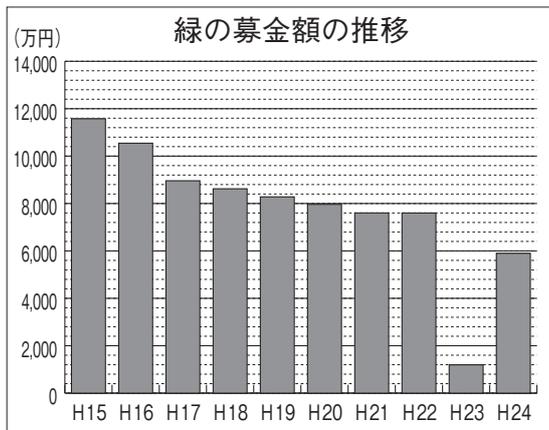
No.188



緑の募金額の推移

平成二三年度は東日本大震災等の影響により、募金額は約一、二〇〇万円にとどまり、多くの事業を中止または縮小しましたが、平成二四年度の募金額は約五、九〇〇万円（平成二四年十二月末現在）のご協力をいただきました。

皆さまからお預かりいたしました緑の募金は「震災からの復興」と「緑あふれる県土づくり」に活用させていただきます。



第38回福島県緑の少年団大会《絆づくり》大会の様子

緑の募金のお願い

大震災から二年が経過し、県内では復興に向けて着実に前進してきておりますが、復興のシンボルとして「平成三〇年の全国植樹祭招致」を目指し、緑の募金は、これまで以上に積極的に緑化運動に役立ててまいります。

四月～五月は「春季緑の募金運動期間」となっておりますので、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

平成二五年度の緑化運動標語

**「今植えた
木々が未来へ
夢運ぶ」**

新規事業

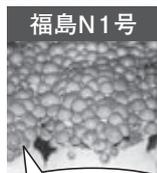
「◎緑の募金学校緑化活動促進事業」
平成二五年度から、県内の小・中学校等における緑化活動を促進するため、学校等が行う緑化活動に要する種苗や資材などの経費の一部を助成します。

お問い合わせ先

(社)福島県森林・林業・緑化協会内
福島県緑化推進委員会
電話 〇二四一五二四一四八〇

きのこで地域を元気に (社)福島県森林・林業・緑化協会 きのこ振興センター

●菌床栽培用ナメコ(登録品種)



安定多収量



大型・滑り少

●原木栽培用ナメコ(登録品種)



コナラ原木で安定・多収量
食物繊維、ペクチン様物質豊富



- その他各種種菌
- 菌床
 - ・シイタケ
 - ・ハタケシメジ
 - ・ムラサキシメジ等
- マイタケホダ木
- 栽培資材

〒963-0112 郡山市安積町成田字西島坂7-2 Tel 024-947-2188 Fax 024-947-6926
E-mail: f-kinoko@mtj.biglobe.ne.jp URL: http://www.f-kinoko.org



の施設

No10

**相馬市における
木造公共施設について**

福島県相双農林事務所

東日本大震災から約二年が経過しようとしている相双地方において、復興の姿が徐々に見え始めている相馬市から、復興に向け交流人口拡大に寄与する相馬光陽パークゴルフ場の休憩施設と高齢者向けの災害公営住宅として整備している相馬井戸端長屋の木造施設を紹介します。

● **相馬光陽パークゴルフ場休憩棟**

相馬光陽パークゴルフ場は、相馬中核工業団地に隣接し、九コース八一ホール of 東北最大級の本格的なパークゴルフ場です。休憩棟は、コース増設にあわせコース内の休憩施設として、平成二二年度森林整備加速化・林業再生基金事業（木造公共施設整備等整備）により整備されたが、震災の影響で工事が中断されました。休憩棟は、既設の管理棟、休憩

～相馬光陽パークゴルフ場休憩棟～



採光、通風に配慮した横ルーバー



休憩棟全景

棟に合わせ、城下町の建物をイメージしたデザインで、建築面積は三三・一二平方メートルで県産木材は九・一立方メートル使用されています。建物外装の一部である採光や通風に配慮した横ルーバーには、耐久性を高めるため熱処理木材を使用した先駆的な技術を取り入れております。また、

～相馬井戸端長屋～



共助コミュニケーションエリア



井戸端長屋全景

● **相馬井戸端長屋（災害公営住宅）**

相馬市は、高齢者向けの災害公営通常は合板を使用する野地板及び下見板等を県産材にするなどし、木の良さを県内外から訪れた利用者に対し、身近にPRできるモデル的な施設となっております。

相馬市は、高齢者向けの災害公営

住宅として井戸端長屋の建設を進めており、そのうち馬場野山田地区において平成二四年七月に完成した井戸端長屋を紹介いたします。井戸端長屋は、高齢者の方たちがお互いに見守りあいながら、共助の精神で生活することを考え、食堂、浴室等が共同施設となっており、中央の廊下を挟み十二戸の個室が設けられ、昔の長屋のように住民同士のコミュニケーションが図れるようになっていきます。施設は木造平屋建て建築面積八五〇平方メートル、木材使用量一四六立方メートルのうち、県産材はスギ柱材等で二六立方メートル使用され、全体の一八割利用されています。内外装は木材が表しとなっており、古民家を思わせるようなシックな色で統一され、その空間は清楚で、落ち着いたたたずまいをかもしだしています。

今回は、相馬市の木造施設を紹介しましたが、今後は、管内の各市町村にて復興に向けた公共施設や住宅が建設されていくことから、木材利用拡大に向けた普及、木材の供給体制の整備を進め、県産材が多く使用され、森林・林業の再生が加速化するよう取り組んで行きたいと思えます。



林道を訪ねて3,000kmシリーズ（第16回）

室谷本名線との出会い

技術士 中村多伸

路線名	室谷本名線	幅員	4.0m	延長	18,000m
市町村名	大沼郡金山町本名地内				
開設年度	昭和26年～昭和57年現在	事業名	峰越連絡林道開設事業		

平成24年9月18日に同僚の渡辺寅男さんと共に、金山町岩淵建設課長に電話で通行が出来るとの確認をして、20数年ぶりに現地調査をすることが出来た。

1. 室谷本名線との出会い

当時の路線名は「本名津川線」と呼称し、峰越して新潟県上川村を結ぶ林道で、現在では旧三条線を包括し、本名発電所の手前を起点とした延長18,000mに及ぶ長い林道である。元々は起点から6km付近に三条集落が10数軒あり、法面岩盤の崩落や雪崩により通行止が繰り返されていたことから、改良の手法や工法について試行錯誤が続けられた。標高約1,000mの高冷地と、現場までの長距離のため「現場事務所」の設置を計画したが、認められず現場での時間が短く、効率が悪く四苦八苦した苦い経験をした林道である。

2. 現地の状況

三条集落は全てが移転され、日常的には利用が減ったと思うが、改良箇所や急勾配区間の舗装による路面状況は極めて良好である。

開設時に下層現地発生材を利用したことから、豪雨時には砂利が流出して路面が凸凹になることがしばしばあったが、急カーブ急勾配区間の舗装により、安定した路面が確保されていて、開設時より良好な路面で、金山町の維持管理に対する取込みが伺える。

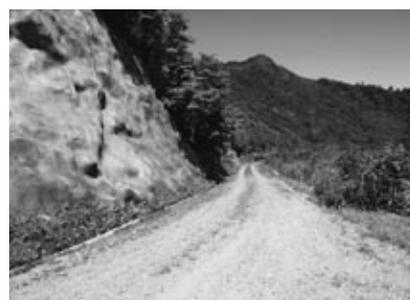
特に、長延長なのに路肩等の草刈が徹底されていて、車両の通行が容易で安全性が確保されていたことに感謝すると共に、他の路線のモデルになると思われる。

3. 技術的な課題と現状

- ① 県境手前2.0km付近に設置した二次製品法止工は、積雪地帯で雪崩が発生する等から寒冷地で高冷地であることを勘案して、在来種の導入による法面保護を実施した。現地はササやヨモギ・メドハギが繁茂し、一部にはハンノキの植生が認められ、現地の植生種子との関係も良好である。
- ② コンクリート二次製品の（法止め工）は雪崩等の原因で、大規模な倒壊が発生したが、ブロック積みで再施工され、現在は良好な状況である。しかし、当時は倒壊の主たる原因究明が出来なく心残りであった。施工時期か背面水の処理なのか凍結融解なのか未だに定かではない。
- ③ 岩盤箇所へのモルタル吹付けは、気象条件の中でも強風と凍結融解を検討して、急勾配でモルタル厚を5cm以上（確かな記憶ではない）で施工した。約30年経過してクラックもなく磨耗も少なく良好な状態であった。
- ④ 湿地帯箇所での盛土箇所は、帯状の排水機能を有する資材を活用して施工したが（かなりの現地発生岩砕を混入もした）、現在は広葉樹の生長が良く、路面は良好で当時の面影はなかった。当工法について当時の監督員に聞いたところ、記憶が定かではなく「県治山林道研究会」の論文集に頼るしかない。しかし、困難を極めた当時の路面から考えると結果オーライなのだろうか。



二次製品の法止工と植生状況



モルタル吹付工の状況

下郷町立旭田小学校における 木育活動について

■南会津農林事務所
林業普及指導員 弓田美和

次代を担う子供たちを対象とした森林環境学習は、管内でも数多く行われるようになりました。その様な中で、本年度「木とのふれあい創出事業」により下郷町立旭田小学校で行いました木育の活動を紹介します。

旭田小学校は全校生96名で、学区内には、紅葉がきれいな観音沼森林公園があるなど、豊かな自然に囲まれています。

今回活動を行ったのは、5年生21名、6年生15名の合計36名。

まず、「木材みんなで使っちゃおう」と題して、20分ほど講話を行いました。

- ①木材を使うと森が育つ
- ②木材は人にやさしい
- ③木材は環境に優しい

の3つの項目に分け、木材利用と私たちの生活の繋がりや木材の良さについて、写真や絵、要点を手書きしたものを黒板に貼り付けながら解説しました。通常はパワーポイントを使うところですが、ある研修で聞きかじったこのやり方、話す側としてはとてもやりやすい手法でした。子供たちも、手作り感のある資料に興味津々のようでした。

続いて、地元で工務店を営む星竹美さんを講師として間伐材を利用した本立ての作成を行いました。子供たちは、ノコギリの使い方や釘の打ち方など、星さんに作り方を教わりながら、慣れない作業に悪戦苦闘。何度も釘を抜き、作り直す姿も見られましたが、なんとか時間内に全員作り上げました。作りながら、柾目と板目の違いなどさりげない木材の特性についての話もあり、有意義な時間となりました。

最後に全員で記念撮影をして終了。できあがった本立ては、子供たちが大切に使うべく、別の時間に塗装してから持ち帰ったそうです。

林業の再生のためには、木材の需要拡大が必要です。そのためにも、未来の社会を担う子供たちに木材の利用についての理解を深めてもらう活動は重要になってきます。今後とも、このような活動を通じて森林林業の大切さを普及していきたいと思えます。



木材の講話



本立て作成中



本立て作成中



本立て完成

木連だより

福島県産材の 安全性を説明 —森と木材の 放射線について知る—



講習会の様子

福島県木連では、木材・合板博物館と共催で二月八日(金)東京・新木場タワーで、二月十五日(金)郡山・ホテル・バーデンで、「森と木材の放射線について知る」と題した講習会を開催した。

1. 目的

東京電力(株)福島第一原発事故により



発生した放射線による福島県の森林・木材等への汚染被害実態と対策について、福島県内外の消費者等への正しい知識と正確な情報を提供することにより、風評被害に影響されることなく適切な福島県産の木材及び木製品の活用が進み、震災復興に寄与できることを目的とする。

2. 講習会内容

(1) 森林の放射性セシウム汚染の実態とモニタリング

森林総研 高橋 正道氏

放射性セシウムの濃度と蓄積分布を調査すると、葉と落ち葉、土壌に集中していることが分かり、汚染の見極めと除染箇所の絞り込みが重要。警戒区域等の立ち入り制限がある地区を除くと森林内部の放射性セシウムの濃度は低く、森林を流れる川にはセシウムはほとんど流れていない。今後の安全

性は実測と長期観察で確認する必要がある。

(2) 木材への放射性セシウム移行

森林総研 高野 勉氏

放射性物質は、まず葉・枝・樹皮・土壌表面に付着し、葉の表面から木幹へ吸収され樹木全体に移行する。同時に、降雨で土壌中にセシウム等が流れ、根の吸い上げで辺材から葉へ、葉の生産物が樹皮を通過して木材部へ移動する。

(3) 県産材の安全確認の取り組み

福島県林業振興課長

大高明 彦氏

製材品の表面線量調査の結果、二〇一一年十一月～十三年一月の最大値は九二c p mで、健康や環境に影響を与える可能性がある表面線量は測定されていないことを説明した。

(4) 講習会のまとめ

木材・合板博物館副館長

平川 泰彦氏

- ① 木材に放射性物質は入るか？
- 放射性セシウム(Cs)は、生きている樹木では木材の中に入る可能性はある。樹木も稲も野菜などと同じ植物であるため。
- しかし、丸太や製材品の製品になつてから、その表面に付着した放射性セシウムが木材製品の中に入り

込むことはほとんどない。

② 木材中にどれくらい放射性物質が入っているか？

● 森林全体に分布する放射性セシウムは、ほとんどが枝葉や落ち葉と土壌に分布しており、木材製品として使用される材に含まれるのは一割未満と非常に少ない。(原発事故前から、食品などにはカリウムなどの自然放射性物質が含まれている。)

③ 木材中に放射性セシウムが含まれているとしても安全か？

● 木材の中に放射性セシウムが含まれていれば、木材から出る放射線による外部被ばくが心配されるが、現在流通している製品において人体に影響を及ぼすほどの放射線をだしているものは確認されていない。

④ 福島県産材が安全と言える二つの理由

● 県の指導で福島県木連が製材品等の自主管理基準値を設定し、自主検査を実施し安全性を確認して出荷していること。

● 県内の大部分の森林は空間線量率が一マイクロシーベルト以下で、現在生産した製品の表面線量をシーベルトに換算すると直近データで最大約〇・〇〇一七マイクロシーベルトで、放射線専門家から健康への影響はないと評価されていること。

団体のページ

福島水源林整備事務所だより

秋田スギの里を訪ねて
(秋田県：千葉家家伝林)



福島県水源林造林推進協議会の平成二四年度先進林業地視察が、昨年十一月六日に行われました。川内村の遠藤雄幸村長を団長とする総勢二五名の訪れた先は、国内有数の林業地域である秋田県です。

秋田県仙北市田沢湖で十代続く千葉家の家伝林は、秋田県内最古の民有林スギ人工林と言われています。そもそも祖先をそれだけ遡れることに歴史を感じて説明して下さった第九代当主千葉茂樹さんのお話をありがたく拝聴いたしました。

千葉茂樹さんというお名前の姓も名も全て林業に関わりのある漢字に思えて、いただいた名刺のお名前を一字一字拝見いたしました。

歴史のある秋田林業ですが、その始まりは秋田の各地に原生のまま繁茂し、大森林を形成していた天然スギに支え

られたものであったそうです。

秋田スギが全国に名を馳せるきっかけとなったのは、全国統一を果した豊臣秀吉が伏見城の築城に当たり用材としての献上を命じたことでありました。

徳川時代になり、秋田藩初代藩主佐竹義宣が領国建設と藩財政の立て直しのために豊富な森林資源の開発に着手し、全国に販売を拡大した結果、森林の伐採が急速に進んだそうです。

時の家老が「国の宝は山なり、山の衰えは国の衰えなり」と警鐘を鳴らしたようですが、その後も江戸城増築など度重なる幕府の要請や江戸の大火復興などの世情に加えて、藩の赤字財政の立て直しのためやむを得ず伐採は継続し、豊かだった森林は日々荒廃が進ん



秋田杉「千葉家家伝林」



視察の様子



集合写真

で家老の心配が現実のものとなり、藩内の森林は受難の時代を迎えたそうです。

そこへ、秋田藩中興の名君といわれる佐竹義和公が藩主として登場し、「今植林しても急場の救いにはならないが、目に囚われては二〇〇年の大計は成らない。自分の代に役に立たなくても必ず国の宝と成るときが来る。一〇〇年の大計で山林荒廃を食い止める。」と言って林政の機構を整備し、植林を奨励して、今日の秋田美林の基礎を築いたそうです。

前置きが長くなりましたが、この頃秋田藩の御山守の職にあった千葉家の先祖が、藩山以外にも自分の山や村の内外に積極的に植林したスギの一部が、現在家伝林として残っているそうです。

二〇〇年を超えるスギが立ち並ぶ姿は実に見事です。樹高五〇メートルを超える迫力には圧倒されます。太いものでは一

本で二〇立方メートル以上の材積があるそうで、ささやかな木造住宅の我が家の木材の量を遙かに超えることを知ってビックリです。

千葉茂樹さんは「樹齢二〇〇年を超えるスギは一握りを残すのみとなってしまった。けれども、秋田スギの特徴を十分に発揮させて付加価値の高い優良材生産を行うため、長伐期施業を進めながら家伝林の法正化と蓄積の充実に努めて行く。」と話されて、林業を取り巻く環境が依然として厳しい状態にある中で、個人所有の林分として家伝林を継承して行く「苦労の一端とこれからの抱負を話しておられました。

福島の森林も現在別の意味で受難の時代を迎えています。「山の衰えは国の衰え」との思いを肝に銘じて、森林や林業の再生に取り組むとの思いを新たにした先進林業地視察でした。

林研コーナー

小学校での森林、 木工教室



作り方を真剣に聞く子供達

小学校での森林教室：林業を仕事としていた者として森林、林業をPR、また理解をしてもらう機会があれば、と思っていました。そんな始まりは、娘が小学校の時でした。『お父さんは木ばかり伐っていて

良くないんだ』と言われ、私はすぐに小学校へ出向きました。「森林、林業について教育はどうなっているんだ」と言った時、当時の教頭先生に、ちょうど良い機会ですので、学校でお話をしていただきたい、と言われたのがきっかけでした。最初はどのようにしたらよいか、とまどうばかりでした。

しかし、森林の働きと林業の大切さを子供達に知ってもらわなければ、との思いで、当時お世話になった先生方の転勤先で、木工教室の場をいただきながら、毎年三か所くらい小学校に出向き、かれこれ十年になるかと思えます。

そんな細々と続けてきた森林・林業教室も二三年度からは福島県林研グループ連絡協議会の林業促進事業の一環として、



田人林業研究会で取組ませていただきました。内容についても充実した体制で行う事ができました。田人林研の仲間、森林・林業・緑化協会、いわき農林事務所の方々と一緒に、多くの子供達と接する事で、林研グループとしても多くの事を得られる機会だっただと思います。近年、木材について、割れ、縮、曲がりなど、欠点ばかりが目立ち、本当の木の良さがあまり知られていない中で、これからの子供達に理解してもらおうには、絶好の機会であると思います。

子供には、得意・不得意があると思いますが、森林教室、木工教室で出会った子供達は興味をもって取り組み、休憩時間も忘れているほどでした。先生方の話の中で、子供達の中には、何に対しても興味をもたない子がいると言っていました。そのような子は一人も見えたら、全員楽しそうに制作してくれました。森林の働きについてのクイズなどで答えを聞けば、多くの子が理解してくれたことがわかります。

一月二五日に実施した今年度第三回木工教室では、間伐材の杉材で本立てを作りました。同じ材料でも、子供達のそれぞれの工夫が伺え、世



完成品と一緒に!!

界で一つしかない本立てに満足そうなお顔を見る事ができました。教える私達（林研、農林事務所、協会）も時間がとても短く感じられました。今回協力いただいた、いわき農林事務所、森林・林業・緑化協会の方々、そして小学校の先生方、子供達に感謝いたします。

田人林業研究会として、これからも森林の働き、大切さを訴えながら、地域に貢献する運動（クリスマスイルミネーション、杉材の門松等）を続け、田人材の広報活動をしていきたいと思えます。

（田人林業研究会 会長 豊田 新一）

木材市況

素材の価格〈工場着価格〉(11月15日現在)

(単位: m³当り千円)

区分	形量		材質	樹種	中通り地方		会津地方		浜通り地方		県平均		
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	
一般用材	小	5~9	4.00	並	スギ	9 (8~9)	0	(0~0)	0	9 (9~9)	0	9 (8~9)	0
		10~13		並	スギ	11 (11~12)	0	9 (7~11)	0	12 (12~12)	0	11 (7~12)	0
	中	14~18	3.00	並	スギ	13 (13~14)	0	11 (10~11)	0	11 (10~13)	△1	12 (10~14)	0
				並	ヒノキ	19 (15~24)	0	(0~0)	0	14 (10~17)	△3	17 (10~24)	△1
		6.00	並	スギ	19 (16~24)	0	(0~0)	0	14 (13~16)	△1	17 (13~24)	0	
			並	ヒノキ	24 (24~24)	0	(0~0)	0	20 (14~26)	0	21 (14~26)	△1	
	20~28	3.65	並	スギ	14 (13~14)	1	12 (12~13)	0	12 (10~14)	△1	13 (10~14)	0	
		4.00	並	アカマツ	11 (9~13)	0	13 (13~13)	0	10 (10~10)	0	11 (9~13)	0	
		1.80	並	アカマツ	7 (5~10)	△1	(9~9)	0	8 (8~9)	△1	8 (5~10)	0	
	外材	30以上	10.00	並	米ツガ	23 (23~23)	0	(0~0)	0	23 (23~23)	△1	23 (23~23)	△1
並				米マツ	26 (24~28)	0	26 (26~26)	0	24 (23~24)	0	25 (23~28)	0	
28以下		4.00	並	エゾマツ	(0~0)	0	(0~0)	0	22 (22~22)	△1	22 (22~22)	△1	
			並	ベニマツ	27 (27~27)	0	(0~0)	0	22 (22~22)	△1	25 (22~27)	0	
70~90		8~14	並	ラワン	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	
			並	アガチス	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	
パルプ用材			並	マツ	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	
			並	広葉樹	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	

区分	形量		材質	樹種	会津共販		いわき	
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	(9~10)	0	9 (8~9)	0
	13~14		並	カラマツ	9 (8~9)	0	8 (7~9)	0
	16以上		並	カラマツ	10 (10~11)	0	11 (10~11)	0

注) 1. 前月差の△印は値下りを、*印は前月実績がなかったことを示す。
 2. ()内は各地域の価格幅、()外は各地域の平均的価格を示す。
 3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。

十月の原木市場への入荷状況は、前月比二〇割増(前年比二割増)の二七、九四七立方メートルとなっている。販売量については、前月比十九割増(前年比二割減)の二七、八一四立方メートルとなっている。夏に落ち込んだ取引量が、秋以降前年並みに回復しつつあり、平成二三年一十月の取扱量は前年比で入荷量、出荷量ともに五割減となっている。十一月の価格については、弱含みである。

現在、富岡林業指導所管内では、徹底したモニタリング検査のもと、安全な施設栽培のキノコが生産されていますが、野生キノコについては、残念ながら利用が制限されている状況が続いています。



採取したオオミヤマトンビマイ

現場で、異様な雰囲気を感じ出している、赤身を帯びたオレンジ色のグニャグニャを発見しました。近づいて見ると異なる物体はキノコで、独特の芳香が漂ってきます。その雰囲気は少し戸惑いでしたが、初めて見るキノコに思えたので、その下に手を入れてみました。確かな石づきの感触は、やはり今までにない手応えで、嬉しい出会いとなりました。

なお、今回採取したオオミヤマトンビマイですが、老菌であり、採取後は時間の経過とともに芳香が強くなり、色も褐色に変わってしまいました。翌年以降も、同様の箇所に発生することもあるとのことなので、いつか、香りだけでなく味見も出来ることを期待して、またの素敵な出会いを心待ちにしています。



真冬に見つけたキノコ
 〓オオミヤマトンビマイ

相双農林事務所富岡林業指導所
 技師 山田 誠

はなしの
ひろば

森林ボランティア

昨年三月、福島県森林ボランティアサポートセンターは、県内で森林ボランティアを行う団体・企業など六七三団体の震災後の活動に関するアンケート結果を公表している。それによると、震災以降、平成三年度中に活動したのは、回答のあった全体の二三割にとどまり、また、今後の活動予定では、四割が予定がないと回答している。その理由は放射能の影響が約半数を占める。市民参加による森林整備等の活動が活発になってきたときだけでなく、それでも残念である。

このような中、平成二十四年十一月に「福島県における森林ボランティア活動研修会」がフォレストパークあだたらで開催された。森林を対象として、自然解説や幼児活動、森林整備等を行っている三〇名の方々が参加された。県外からも六名の参加があった。皆さん、活動が制限され、活動するにしても放射能が足かせとなり、前に進めないでいるという。研修は、放射能の基礎知識・森林内の放射性物質の動態・除染・幼小少年期における野外活動の意義など、専門家を講師に行われた。

研修を終えた参加者からは、「森林除染の必要性を再認識した」、「必要以上に恐れている自分に気づいた」、「子供にとって野外活動の大切さを認識した」、「諦めだけでなく少し道が見えてきた気がする」といった感想が聞かれた。

東京から参加された方からは、森林除染のボランティア活動があれば参加したいし、また自分たちのように思っている人たちは大勢いるので、是非、首都圏へ働きかけてほしいという話である。

森林所有者や林業関係者以外の一般市民の方々が福島県の森林に対して、大きな関心を持って見ていく。また、何らかの活動に参加したいと思っていることを心強く感じている。森林ボランティアによる活動が、福島県の森林・林業再生の決定打になるわけではないが、一つ一つの地道な積み重ねと新たな取り組みが、森林をとおした地域復興、再生に繋がっていくものと確信している。もちろん、森林所有者をはじめ、森林・林業に携わる方々のご理解とご協力が大前提であるが、

安達 薫風

表紙の写真



「早春の里山風景」

第9回ふくしま森林・林業写真コンクールで入選となった原田和夫さん（伊達市）の作品。

編集

福島県内四森林管理署

福島県森林・林業・緑化協会

福島県森林組合連合会

福島県木材協同組合連合会

福島県農林種苗農業同組合

福島県農林業公社

森林総合研究所福島水源林整備事務所

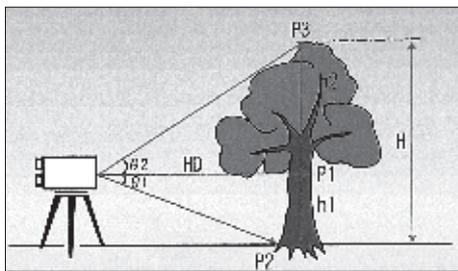
福島県森林・林業・緑化協会

（福島市中町五番一八号県林業会館内）

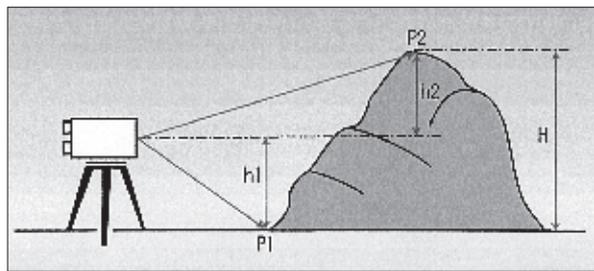
発行人 相馬 雅俊
陽光社印刷株式会社
（定価 六三円）

高さ測定

1. 樹木の様に比較的まっすぐな場合

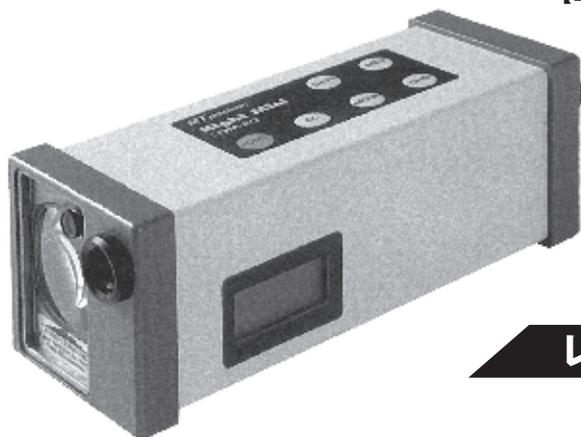


2. 堆積物等の山なり形状の場合



【LDM-20 仕様】

測距範囲	反射板 無30m 有300m
測距精度	± 5mm
傾斜センサー分析能	0.1
測定	高さ・水平距離・斜距離
寸法	W64・H64・D180
重量	650g
付属品	ソフトケース・反射板・取説 RS232Cケーブル・EXCEL取込ソフト



LDM-20

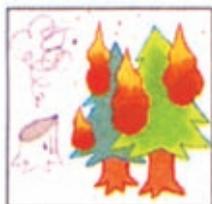
レーザーハイトセンサー「ハイト mini」

株式会社 福島測機

福島市渡利山ノ下前37-2 TEL024-523-1706 FAX024-523-1704

備えのパートナー 森林国営保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



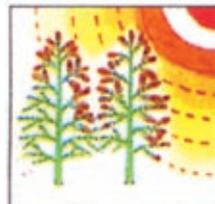
3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



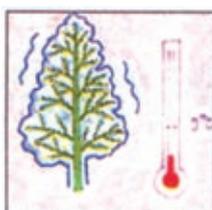
4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

- ◆ 県内各森林組合
- ◆ 福島県森林組合連合会

又は 県庁森林保全課
TEL 024-521-7441

イワフジのプロセッサ

GP-45V グラップルプロセッサ

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

シンプルと耐久性を追及したプロセッサ

- 高耐久性を追及したフレームとトンク
- 全旋回を無くしたシンプル設計
- カッタ保持はシンプルなスプリング式
- 強力な油圧モータおよび保持力によるパワフルな送材力
- 大きなトンクによる効率的なグラップル作業
- 皮剥けを防止するガイドローラ付トンク
- 高速コンピュータGP-7による精度の高い安定した測尺
- 手元のノブスイッチで全ての操作が可能

Simple Processor
MODEL : GP- 45V

イワフジ工業株式会社

www.iwafuji.co.jp

北関東支店 〒969-1149 福島県本宮市本宮万世11-7
TEL 0243-34-5440 FAX 0243-34-5442

林業機械の総合メーカー

- ・ハーベスタシリーズ
- ・フォワーダシリーズ
- ・グラップルシリーズ
- ・プロセッサシリーズ
- ・スイングヤーダシリーズ
- ・ラジキャリアシリーズ
- ・木寄せウインチシリーズ

イワフジが開催する「高性能林業機械のメンテナンス研修」受講生募集中!



自然との調和

(私達は、地球的視野に立ち、つねに進取の精神をもって、時代に挑戦します。)
皆様のご要望にお応えする、環境との調和を図る製品やタイムリーな情報を提供し、全国から厚い信頼をいただいております。

野生獣類から大切な植栽木を守る

ヤシマレント

蜂さされ防止

ハチノックL (巣退治)
ハチノックS (携帯用)

**大切な日本の松を守る
住化グリーン®の林業薬剤**

ヤシマスミバイン乳剤
ヤシマスミバインMC
グリーンガードNEO
バークサイドF
ヤシマNCS
モリエートマイクロカプセル
マツグリーン液剤2
マッケンジー

くん蒸用生分解性シート

与作シート (茶・白)
(折りたたみ式)
(専用キャリーバック使用)



住化グリーン株式会社

本社 〒104-0032 東京都中央区八丁堀4丁目5番4号 TEL.03-3523-8070 FAX.03-3523-8071
東北営業所 〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央3丁目10番3号 泉セントラルビル202号室 TEL.022-771-6681 FAX.022-771-6682

効率良く快適に! 手持ち作業から大型作業まで充実のラインナップ。

機器はゼノアから

排気量 **18.3cm³**
世界最小・最軽量、2.2kgの手のひらサイズ



G2000T 

20cm(8インチ)・SP ¥66,675(税込)
20cm(8インチ)・CV ¥72,765(税込)

排気量 **40.1cm³**
さまざまな用途に対応、本格プロ仕様シリーズ



G4211EZ 

40cm(16インチ)・SP ¥135,660(税込)
45cm(18インチ)・SP ¥137,865(税込)
40cm(16インチ)・H ¥135,660(税込)
45cm(18インチ)・H ¥137,865(税込)

使いやすさを追求したハンドルと
思いのアクセルワークが可能なトリガーレバー。



BC2711DW1-EZ

・防振ハンドルブラケット
・トリガーレバータイプ
チップソー ¥79,380(税込)
笹刈刃 ¥78,330(税込)

ハスクバーナー・ゼノア(株)福島県代理店

(有)うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108の1